# 長野県埋蔵文化財センター年報 24

2007

財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

# 長野県埋蔵文化財センター年報24

# 2007

財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

中野市柳沢遺跡　銅戈・銅鐸埋納遺構

2～7号銅戈と銅鐸

# 目　次

口絵写真

・中野市　柳沢遺跡　銅戈・銅鐸埋納遺構
2～7号銅戈と銅鐸

目　次


Ⅰ　2007年度の埋蔵文化財センター……1

Ⅱ　発掘作業の概要……2
（1）柳沢遺跡……3
（2）宮沖遺跡……6
（3）東條遺跡……8
（4）上五明水田址……10
（5）近津遺跡群……12
（6）西近津遺跡群……14
（7）周防畑遺跡群……18
（8）御社宮司遺跡……20
（9）井戸端遺跡……22

Ⅲ　整理作業の概要……24
（1）東高遠若宮武家屋敷遺跡……25
（2）下り松遺跡・山本大塚遺跡ほか……26
（3）竹佐中原遺跡……27

Ⅳ　普及公開活動の概要……28
（1）展示会・講演会
（2）25周年展
（3）現地説明会
（4）ニュース～みすずかる～の発行

Ⅴ　研修、資料調査等の概要……30
（1）講師招へいによる指導
（2）全埋協等への参加
（3）研修及び資料調査
（4）考古学関係研究会・
研修会・講演会での発表
（5）県内市町村及び関係機関への協力・指導
（6）学校等への協力・指導
（7）資料等貸与一覧

Ⅵ　組織・事業の概要……36
（1）組　織
（2）職　員
（3）事　業

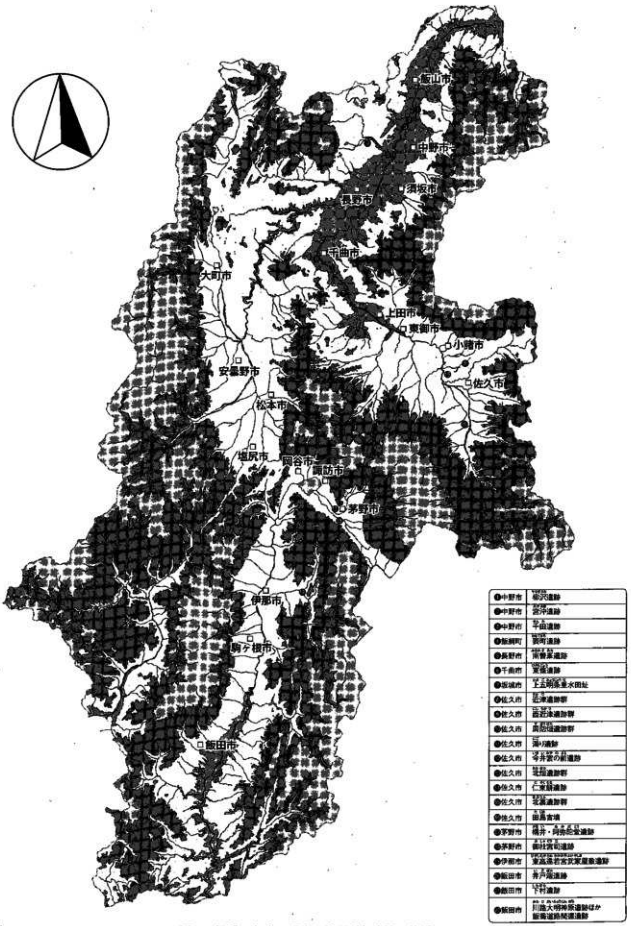



図1　平成19年度　調査・整理対象遺跡の位置

# Ⅰ　2007年度の長野県埋蔵文化財センター

今年度は10件の開発事業にかかる発掘・整理作業を受託し、速報展等の自主事業を行った。

発掘調査の対象となった遺跡は19ヶ所、総面積約11haにのぼる。また、22遺跡の整理作業を進め、2編の報告書を刊行した。事業費総額は780,744千円（対前年度比９％増）である。

**■旧石器時代　南曽峯遺跡**（長野市）では黒曜石製のナイフ形石器等を含むブロックの範囲が、南西方向へ広がり、新たに礫群がみつかった。

**■縄文時代　表町遺跡**（飯綱町）では逆茂木をもつ楕円形落とし穴と、溝状落とし穴の分布域が広がった。前者は早期と前期、後者は後期に構築している。楕円形の落とし穴は**近津遺跡群**（佐久市）の東端でもみつかった。一方、**柳沢遺跡**（中野市）では市内７軒目の敷石住居跡を検出した。

**■弥生時代　柳沢遺跡**で、中期中頃までに製作された銅鐸１口と銅戈７本を、整然と並べて埋納した土坑が東日本で初めて発見された。来年度は、水田址や礫床木棺墓等の遺構とともに青銅器埋納坑の遺跡内での位置づけを明確にしていく。一方、**西近津遺跡群**（佐久市）では、昨年度の調査で発見された後期の超大型竪穴住居跡北側から大規模な溝跡がみつかった。後期後半に造成されたらしい。また、**周防畑遺跡群**（佐久市）の円形周溝墓付近からヒスイ製勾玉１点、これに隣接する竪穴住居跡から土製勾玉１点が出土している。

**■古墳時代　西近津遺跡群**の湧玉川を望む北端崖上で前期の方墳２基を発見した。同遺跡群では中期の住居跡が古墳に隣接して造られる。後期になると居住域が調査区全体に展開し、古代の大集落へと継続する。また、**下村遺跡**（飯田市）、**上五明条里水田址**（坂城町）、**東條遺跡**（千曲市）および**宮沖遺跡**（中野市）でも集落跡を確認した。**宮沖**では旧河道を利用した前期水田跡の上層に**千田遺跡**や**川久保遺跡**まで広がる後期の居住域が重なり、土地利用の変遷と広がりが捉えられた。**上五明条里**の子持勾玉、**東條**の上馬および**南曽峯**の形象埴輪片等、注目すべき遺物もある。なお、佐久平南部の**田島古墳**（佐久市）は、現況測量により、突出部が付く方墳の可能性が出てきた。

**■奈良・平安時代　西近津遺跡群**は調査区中央に奈良時代の掘立柱建物跡が20数棟群列し、建物跡の柱穴から「郡」と刻書された須恵器坏片（硯に転用）がみつかった。これ以外に円面硯、川原寺様式の瓦（周防畑遺跡群）といった郡衙あるいは寺院跡に関連する遺物も出土している。平安時代の竪穴住居跡にあった銅印「釗予私印」も念頭におき、同遺跡を地方有力者の居宅跡とみておく。**上五明条里水田址**は人骨を伴う木棺墓に土師器坏、鉄製紡錘車、鉄鐸8口等が副葬されていた。そのほか、**近津**、**東條**、**表町**、**宮沖**の各遺跡にも平安時代の集落跡がある。**立ヶ花表遺跡**（中野市）では試掘で須恵器窯跡が確認されている。

**■鎌倉～江戸時代　東條遺跡**では西接する一本松街道沿いに、礎石建物跡や礫を壁に廻らせた竪穴状遺構等による鎌倉時代の集落があった。石組井戸からは表面に「梵字（バン）迷故三」、裏面に「南無」と書かれた木簡が出土している。**御社宮司遺跡**（茅野市）でも御射山道と想定される道路関連遺構に面した集落を確認した。カワラケ溜まりの方形土坑内には鞍の爪先に装着した沓金具等が混在している。**表町遺跡**と**井戸端遺跡**（飯田市）では山城に関係する集落がみつかった。

**■整理作業・自主事業**　縄文から室町時代の**構井・阿弥陀堂遺跡**（茅野市）および江戸時代の**東高遠若宮武家屋敷跡**（伊那市）の報告書を刊行した。**竹佐中原遺跡**（飯田市）はC地点の石器接合と実測が進み、事実記載もほぼ終了している。飯田市山本地区にある縄文時代以降の**下り松遺跡**（飯田市）ほか13遺跡と**川路大明神原遺跡**（飯田市）をあわせて、来年度編集作業に入る。

速報展は、**西近津遺跡群**の大型竪穴住居跡をメインに約670点を公開した。さらに、開設25周年の節目として、出土品約1,000点を一堂に会した記念展を開催した。また、例年通り**柳沢**、**西近津**をはじめ６遺跡を一般公開した。

# Ⅱ　発掘調査の概要

| 遺跡名 | 所在地 | 事業名 | 面積㎡ | 調査期間 | 時代・内容 | 主な遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 柳沢（やなぎさわ） | 中野市 | 千曲川柳沢・替佐築堤 | 6,000 | 9.3～12.14 | 縄文時代：敷石住居跡、土坑。弥生時代：青銅器埋納坑、礫床木棺墓、溝跡、土坑。平安時代：土坑。中・近世：溝跡、土坑 | 縄文時代：土器、石器、石棒、玉。弥生時代：土器、石器、管玉、勾玉、銅戈、銅鐸。平安時代：土師器、須恵器。中・近世：陶磁器、石臼、五輪塔、銭 |
| | | | | 12.11～H20.3.14 | 弥生時代：青銅器埋納坑を切り取り、県立歴史館内で調査 | |
| 宮沖（みやさき） | | | 9,470 | 4.16～9.12 | 古墳時代：竪穴住居跡、掘立柱建物跡、水田跡、溝跡、土坑。奈良・平安時代：竪穴住居跡、溝跡、土坑。中・近世：掘立柱建物跡、水田跡、畑跡、溝跡、土坑 | 縄文時代：石鏃、石皿。古墳時代：土師器、須恵器、石製模造品、ヒスイ垂飾。奈良・平安時代：土師器、須恵器、鉄製品、炭化米。中世：陶磁器、石臼、鉄製品 |
| 千田（せんた） | | | 6,070（試掘のみ） | 9.11～9.25 | 中・近世：水田跡 | 中・近世：木製品 |
| 立ヶ花表（たてがはなおもて） | | 北陸新幹線 | 11,000（試掘のみ） | 11.19～11.30 | 平安時代：須恵器窯跡、灰原跡 | 縄文時代：石鏃。平安時代：須恵器、窯体片 |
| 南曽峯（みなみそうね） | 長野市 | | 207 | 6.20～11.28 | 旧石器時代：石器ブロック、礫群。弥生時代以降：ピット。平安時代：竪穴住居跡、土坑、溝跡 | 旧石器時代：ナイフ形石器、石核。縄文時代：局部磨製石斧、石鏃。弥生時代：土器、勾玉。古墳時代：埴輪片。平安時代：土師器、須恵器。中世：五輪塔片 |
| 表町（おもてまち） | 飯綱町 | （主）長野荒瀬原線 | 4,200 | 4.9～6.29 | 縄文時代：土坑（陥穴ほか）。平安時代：竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑。中世：掘立柱建物跡、溝跡、土坑。 | 縄文時代：土器、石器。平安時代：土師器、須恵器。中世：かわらけ、陶磁器、石臼、茶臼、石鉢 |
| 東條（ひがしじょう） | 千曲市 | 一般国道18号坂城更埴バイパス | 5,700 | 4.16～11.30 | 古墳～平安時代：竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑。中世：礎石建物跡、井戸跡、溝跡、竪穴状遺構、土坑ほか | 古墳～平安時代：土師器、須恵器、灰釉陶器、土馬、円筒形土師器、銀環、鉄製品。中世：陶磁器、硯、石臼、砥石、五輪塔、木簡、箸、曲物、漆器、銭貨、人骨 |
| 力石条里（ちからいしじょうり） | | （主）長野上田線力石バイパス | 620 | 10.2 | 遺構なし | 遺物なし |
| 上五明条里（かみごみょうじょうり）水田址（すいでんし） | 坂城町 | | 7,339 | 5.7～12.11 | 古墳時代：竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、土坑。平安時代：竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、木棺墓、土坑。平安時代後期以降：水田跡 | 古墳時代：土師器、須恵器、子持ち勾玉、石製模造品。平安時代：土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦塔、鉄鐸、紡錘車、人骨、獣骨 |
| 近津（ちかつ） | 佐久市 | 中部横断自動車道 | 6,600 | 8.31～12.20 | 縄文時代：土坑（陥穴ほか）。古墳時代：竪穴住居跡。平安時代：竪穴住居跡。時期不明：溝跡 | 縄文時代：土器。古墳時代：土器ほか。平安時代：土師器ほか |
| 西近津（にしちかつ） | | | 16,500 | 4.10～12.20 | 縄文時代：遺物集中。弥生時代：竪穴住居跡、円形周溝墓、方形周溝墓、木棺墓、溝跡、土坑。古墳時代：方墳、竪穴住居跡、掘立柱建物跡。奈良・平安時代：竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑。中世：溝跡 | 縄文時代：土器、石器。弥生時代：土器、土製品、銅釧、銅鏃、鉄剣、勾玉、管玉、ガラス玉、磨製石斧、獣骨。古墳時代：土師器、須恵器、石製模造品、耳環、馬具、鉄鏃。奈良・平安時代：「郡」刻書ほか須恵器、「大井」刻書ほか土師器、灰釉陶器、銅印、銭貨、鉄鏃、人骨、牛馬骨。中世：青磁、鉄製品、銭貨、牛馬骨 |
| 周防畑（すぼうばた） | | | 1,900 | 4.16～7.9 | 弥生時代：竪穴住居跡、円形周溝墓、土坑。平安時代：竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、土坑 | 弥生時代：土器、銅鏃、ヒスイ製勾玉。平安時代：土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄製品、人骨？、牛馬骨？ |
| 濁り（にごり） | | | 6,000（トレンチのみ） | 4.18～5.24 | 時期不明：自然流路、近世以降：溝 | 弥生時代～中世：土器 |
| 今井宮ノ前（いまいみやまえ） | | | 3,000（トレンチのみ） | 4.23～5.16 | なし | 中・近世：陶磁器 |
| 北畑（きたはた） | | | 2,200 | 4.10～6.8 | 遺物散布地 | 弥生時代～平安時代：土器 |
| 仁束餅（にそくもち） | | | 17,000（トレンチのみ） | 5.16～7.13 | 遺物散布地（ほ場整備により削平） | 中・近世：陶磁器 |
| 北裏（きたうら） | | | 7,700 | 5.29～9.21 | 縄文時代：遺物散布地 | 縄文時代：土器、石器。平安時代：土師器、須恵器。中・近世：陶磁器 |
| 田島古墳（たじまこふん） | | | 900（現況測量、試掘） | 9.18～10.10 | 古墳時代：方墳？（張り出し部を持つ可能性あり） | なし |
| 御社宮司（みしゃぐうじ） | 茅野市 | 一般国道20号坂室バイパス | 2,500 | 4.16～8.2 | 中世：掘立柱建物跡（竪穴を伴うものあり）、溝跡、土坑。近世：竪穴状遺構 | 中世：内耳土器、かわらけ、陶磁器、青銅製・鉄製馬具、鉄製品、銭貨、竹製品？、炭化種子、骨。近世：陶磁器、銭貨 |
| 井戸端（いどばた） | 飯田市 | 一般国道474号飯喬道路 | 3,800 | 8.27～12.12 | 中世以降：掘立柱建物跡、溝跡、土坑 | 中世以降：内耳土器・陶磁器、刀子・釘 |
| 下村（しもむら） | | | 5,588 | 11.15～12.12 | 古墳時代：竪穴住居跡、土坑 | 古墳時代：土師器、須恵器、薦綱石 |
| 鶯ヶ城（うぐいすがじょう） | | | 16,073（現況測量） | 11.15～11.22 | 中世：城館跡 | なし（測量のみのため） |

# （1）柳沢遺跡

（千曲川柳沢築堤関係）

**所在地及び交通案内**：中野市大字柳沢字屋敷添
国道292号線古牧橋の南交差点東約600m

**遺跡の立地環境**：南部は高社山山麓の崖錐地形先端部から夜間瀬川沿いの低地、北部は滝ノ沢川の扇状地扇端部

**発掘期間等**

| 調査期間 | 調査面積 | 調査担当者 |
|---|---|---|
| 19.9.3～12.14<br>12.11～20.3.14 | 6,000㎡ | 綿田弘実　市川隆之　廣田和穂　白沢勝彦　大沢泰智 |

**検出遺構**

| 遺構の種類 | 数 | 時期 |
|---|---|---|
| 住居跡 | 2 | 縄文 |
| 青銅器埋納坑 | 1 | 弥生 |
| 溝　跡 | 33 | 弥生　中・近世 |
| 焼土跡 | 2 | 近世 |
| 礫床木棺墓 | 10 | 弥生 |
| 土　坑 | 1,183 | 縄文、弥生、平安、中・近世 |

**出土遺物**

| 遺物の種類 | 時期・内容 |
|---|---|
| 土器・陶磁器 | 縄文、弥生、平安（土器）、中・近世（陶磁器） |
| 石　器 | 縄文（打石斧、凹石）、弥生（磨石斧、石鏃） |
| 石製品 | 縄文（石棒）、弥生（勾玉、管玉）、近世（石臼） |
| 漆　器 | 近世（椀） |
| 青銅器 | 弥生（銅戈7、銅鐸1） |
| 青銅製品 | 近世（銭貨） |

### 夜間瀬・千曲川べりに広がる大遺跡

柳沢遺跡は、千曲川をのぞむ高社山麓の西向き斜面に立地する広大な遺跡である。遺跡西端に相当する千曲川と夜間瀬川合流地点付近に、延長約800mに及ぶ築堤工事が計画され、平成18年度から記録作成目的の発掘調査が開始された。18年度は夜間瀬川上流側の2,000㎡（1区と呼称）を調査し、弥生時代中期後半から後期の水田跡・溝跡等を検出した。今年度はその北に隣接する延長約200mの2～7区5,000㎡と、更に北へ100m隔たる道路付け替え予定地の8区約1,000㎡の本調査、7区以北の試掘調査を行った。

図2　柳沢遺跡の位置（1：50,000中野）

2～7区は標高約320mで、崖錐が低地に変わる地点にあたり、2面調査を実施した。

8区は標高322m前後で低地と離れ、地表下約40cmの黄褐色火山灰土上面で縄文・弥生時代、中世の遺構が検出された。8区はかなり撹乱されていたものの、調査範囲では最古となる縄文中期末葉の敷石住居跡2軒と、隣接する沢状地形から礫に混じって多量の縄文土器が出土した。他に弥生時代後期初頭の土器棺墓1基、調査区を縦断する深さ・幅とも1m前後の中世頃と思われる溝跡を検出し、集落域の一部が確認された（図3）。

図3　8区を縦断する溝に切られた敷石住居跡、縄文土器埋納土坑（中央下）、土器棺墓（左）

図4　南西からの空撮。右後方は高杜山、左端は千曲川、中央の柵の中に青銅器埋納坑がある

図5　埋納坑の中の1～5号銅戈と銅鐸

図6　真上から見る。内側の銅戈は小形

## 青銅器埋納坑の発見

青銅器埋納坑は3区と4区の間にある水路を挟み、排水路を兼ねて掘削した土層観察用の壁面で、地表下約1.5mの深さから検出された（図5）。弥生時代中期後半～後期前半の遺物包含層の下で確認された。北側を重機で削り取られ、残存部分の平面は東西66cm、南北26.2cmの隅丸長方形、断面は深さ17cmの鍋底形である。埋土は、青銅器を設置するための土、位置が動かないように押さえる土、埋納坑を埋め戻した土の3層からなる。

埋納坑の所在地は、本遺跡の居住域と推定される範囲の西側で、千曲川の低湿地に面した微高地に当たる。南側の1・2区の低地には弥生時代の水田跡が広がっている。

埋納された青銅器は銅戈7本と、銅鐸1点である。銅戈は埋納状態を保った5本を、南側から1号～5号、最初に壁面で出土したものを6号、排水溝底から採取したものを7号と呼ぶ。1～6号はすべて鋒を西向き、内を東向きにそろえて胡を

図7　銅鐸。全体に磨滅しているが身に流水文、鰭に鋸歯文が見える

立て、1～4号は胡の上下を互い違いに置く。銅戈の配置は、南・北の両端に30cmを超える大形の銅戈を配し、内側には30cmに満たない小形の銅戈が置かれている。

銅鐸は鈕から身上部が埋納坑内にあり、排水溝底から鰭のある鐸身の破片が採取された。前者は銅戈から5cmほど東にあり、鈕を南に向け鰭をほぼ水平にして横たえている。これらは1→7号銅戈、銅鐸の順序で直に埋納したと推定される。

## 埋納された銅戈と銅鐸

銅戈の全長・胡長、重量は次表のとおりである。2～7号は大阪湾型a類に属す。2・6・7号は樋の穿に接する部分に斜格子文帯があり、3・5号はそれに加えて複合鋸歯文がある。これらは和歌山県山地出土銅戈と同じ組み合わせである。

6号は山地の最大例とほぼ同じく、7号は大阪湾型の中では最大例となる。1号は九州型（中細形）で、他の銅戈に比して保存状態が悪い。東日本で九州型の完形品が出土したこと、大阪湾型と共伴したことは共に初めての事例となる。

**銅戈法量**　計測値（　）は現存値

| 番号 | 全長(mm) | 胡長(mm) | 重量(g) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1号 | 344 | (115) | 未計測 | 樋は綾杉文、内に文様あり |
| 2号 | 235 | (85) | 265.7 | 樋に斜格子文帯 |
| 3号 | 252 | 106 | 256.0 | 樋に斜格子文・複合鋸歯文 |
| 4号 | 222 | 111 | 241.0 | 樋は無文 |
| 5号 | 274 | 108 | 331.5 | 樋に斜格子文・複合鋸歯文 |
| 6号 | 324 | 122 | 502.6 | 樋に斜格子文帯 |
| 7号 | 361 | 168 | 713.5 | 樋に斜格子文帯 |

銅鐸は破片が接合し、現存高17.3cm、舞の長径から高さ20cm程度と推定される。鈕の形態や鐸身に流水文が確認できることから外縁付鈕1式と考えられる。鰭には鋸歯文が認められる。

銅戈・銅鐸とも製作年代は紀元前2世紀、埋納時期は紀元前後と推定される。

## 東日本の青銅器文化を見直す調査

平成19年10月17日6号銅戈の発見直後から、資料の重要性にかんがみ、柳沢遺跡調査指導委員会を設けて指導を受けながら調査を進行している。現在まで諸委員の指摘する成果を紹介する。

第一に、西日本の青銅器埋納例と比較しても抜群の遺存状態の良さがある。不時発見が多く正確な記録が少ない中で、複数の青銅器の埋納状態が的確に把握できたきわめて稀な例である。

第二に、集落と遺跡群の中で把握できることがあげられる。埋納坑が居住域と水田域間に位置し、北側の6A区を中心に10基検出された礫床木棺墓群とも約40mと近い。周辺には栗林遺跡をはじめ千曲川中・下流域の大規模な遺跡群が点在する。

第三に、北部九州から近畿地方の青銅器埋納と同じ作法で銅戈・銅鐸を埋納していることである。同じ器種セットは兵庫県桜ヶ丘遺跡に見られ、埋納作法は島根県荒神谷遺跡をあげるまでもない。

従来東日本では青銅器文化の欠落が特徴とされてきたが、弥生文化の理解を見直す調査となった。

図8　1号銅戈。樋に綾杉文、内に陽刻がある

# （2）宮沖（みやおき）遺跡

（千曲川替佐築堤関係）

**所在地及び交通案内**：中野市豊津字宮沖
ＪＲ飯山線　替佐（かえさ）駅北東200m

**遺跡の立地環境**：斑尾川左岸の河岸段丘と氾濫原低地（まだらお）

**発掘期間等**

| 調査期間 | 調査面積 | 調査担当者 |
|---|---|---|
| 19.4.16～9.12 | 9,470㎡ | 市川隆之　楠田弘実　白沢勝彦<br>広田和穂　大沢泰習 |

**検出遺構**

| 遺構の種類 | 数 | 時期 |
|---|---|---|
| 竪穴住居跡 | 30 | 古墳前期、古墳後期、奈良、平安 |
| 掘立柱建物跡 | 2以上 | 古墳、中世 |
| 溝跡 | 10 | 弥生　近世 |
| 土坑 | 1,800 | 古墳～中世 |
| 焼土跡 | 16 | 中世 |
| 水田跡 | 4 | 古墳前期、中・近世 |
| 畑跡 | 1 | 中世 |
| 溝跡 | 18 | 古墳前期、奈良、中・近世 |

**出土遺物**

| 遺物の種類 | 時期・内容 |
|---|---|
| 土器・陶磁器 | 縄文、弥生（土器）、古墳～平安（土師器・須恵器）、中・近世（陶磁器） |
| 石器 | 縄文（石鏃、石皿、磨製石斧） |
| 土製品 | 平安（羽口、土錘） |
| 石製品 | 縄文（ヒスイ錘飾）、古墳（滑石製模造品（鏡？））他 |
| 金属製品 | 平安（紡錘車、釘） |
| 他 | 奈良（炭化米） |

## 斑尾川沿いに広がる古墳時代後期～奈良時代を中心とした集落跡

当センターでは平成14年度から千曲川築堤事業に伴い、千曲川・斑尾川合流地点付近の川久保・千田遺跡を調査してきた。本年度は斑尾川の上流側に隣接する宮沖遺跡の調査と、対岸の千田遺跡の試掘調査を実施した。

図9　宮沖遺跡の位置（1／50,000中野）

宮沖遺跡は斑尾川の氾濫原と河岸段丘からなり、氾濫原では中・近世の水田跡２面を、河岸段丘上では第１面で中世集落跡、第２面で中世集落跡と古墳前期～平安時代の集落跡、第３面で古墳時代前期水田跡の合計３面を調査した。

段丘上では、第３面より下層で縄文時代後期の土器を含む小河川跡がみつかり、この時期まで川跡の窪地が残存する氾濫原の一部だった可能性がある。その後、斑尾川が現位置へ移動して段丘が形成され、集落地として利用されるようになったと推測される。氾濫原側の調査区では、斑尾川が流路を移動しながら流れたためか、中世以前の遺構包含層は残存していなかった。この様相は斑尾川上流右岸の千田遺跡の試掘調査でも確認され、千田遺跡では堆積土層も薄く、近世と推測される

図10　上空からみた宮沖遺跡調査区全景

図11　段丘上の第２面・古墳後期～中世遺構

図12　段丘上第３面・古墳前期水田跡

水田跡しか認められなかった。

段丘上でみつかった古墳時代前期水田跡（第３面）は川跡の窪地を利用し、斑尾川から取水したと思われる用水を備えている。洪水土で埋積して放棄され、その場所は集落跡へ変わっている。

古墳時代後期の集落跡は、隣接する千田・川久保遺跡でも広範囲に確認されており、本遺跡でも多くの住居跡がみつかった（第２面）。ただし、周囲の遺跡のなかで奈良時代まで継続するのは上流部の宮沖遺跡から川久保遺跡である。

続く平安時代住居跡は同一面で２軒が散在してみつかったのみである。

中世以後（第１・２面）は、遺物が少なく時期の詳細は明らかにできなかったが、掘立柱建物跡が数多くみつかっており、比較的安定した居住地に利用されたと思われる。１面より上部にのる水田層の存在から近世には水田化したと捉えられた。

図13　宮沖・千田遺跡調査範囲

# （3）東條遺跡

（国道18号坂城更埴バイパス関係）

**所在地及び交通案内**：千曲市大字八幡字東條
ＪＲ篠ノ井線姨捨駅下車　千曲市営バス斎の森神社前バス停下車

**遺跡の立地環境**：姨捨土石流台地から連なる押し出し地形の末端部

**発掘期間等**

| 調査期間 | 調査面積 | 調査担当者 |
|---|---|---|
| 19.4.16～11.30 | 5,700㎡ | 岡村秀雄　小林秀行　市川桂子 |

**検出遺構**

| 遺構の種類 | 数 | 時期 |
|---|---|---|
| 竪穴住居跡 | 31 | 古墳～平安 |
| 掘立柱建物跡 | 1 | 古墳～奈良 |
| 竪穴状遺構 | 6 | 中世 |
| 礎石建物跡 | 2 | 中世 |
| 井戸跡 | 9 | 中世 |
| 溝跡 | 5 | 中世 |
| 土坑など | 1372 | 古墳～近世 |

図14　東條遺跡の位置（1／50,000長野）

**出土遺物**

| 遺物の種類 | 時期・内容 |
|---|---|
| 土器・土製品 | 古墳～平安（土師器、須恵器、土馬）、中世（陶磁器） |
| 木製品 | 中世（漆器、木筒、曲げ物） |
| その他 | 古墳（銀環）、中世（砥石、硯、刀子、銭貨、骨類） |

## 古道に沿う中世の集落

遺跡は西側に接する平安から鎌倉時代頃の推定古道「一本松街道」沿いにあり、昨年度に引き続き、鎌倉時代後期から室町時代の遺構・遺物が多数発見された。姨捨山側からの土石流堆積層を基盤としているためか、礎石建物跡や石組み井戸跡、壁に石をめぐらせた竪穴状遺構（竪穴建物跡）など、石を利用した遺構が特徴的に認められる。

図15　空からみた東條遺跡（奥に千曲川を望む）

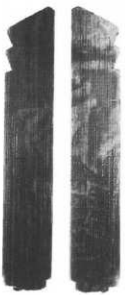
図16　中世の建物跡の土台（礎石）が並んで発見された

4間×2間の礎石建物跡は、有力者の屋敷や社寺施設なども視野に、周囲の遺構・遺物出土状況と合わせて検討中である（図16）。竪穴状遺構は一辺4m前後の方形で、壁に石をめぐらし、炉のような焼土だまりを壁側に1箇所ともなう。めぐらした石は一部途切れ、そこが出入り口部と考えられる（図17）。県内では佐久市北山寺遺跡など、いくつか類例があり、住居や作業小屋的な利用が推測される。この竪穴状遺構と礎石建物跡は重複し、竪穴状遺構が新しい施設であることが判明している。また、石組み井戸は数基が近接して見つかり、つくりかえがあったと考えられる。

今年度調査区は、昨年度のような低湿地ではないため、木製品の出土量は比較的少なかった。その中で、井戸跡から木簡が出土した（図18）。欠損資料で、長さ146mm、幅25mm、厚さ1～3mmが残存していた。頭部に2箇所の切り込みが入る。墨書は墨が抜けた跡として確認でき、表面に「梵字（バン）迷故三」（定型文である「迷故三界城」の一部）、裏面に「南無」が書かれていた。

なお、昨年に引き続き、中世の遺構検出面から土石流堆積層を挟んだ下層で、古墳時代後期を主とした集落が調査区の東側にみつかり、住居跡の多くは重複していた。また、「土馬」「円筒形土師器」などの土製品が出土した。

図17　壁に石をめぐらせた中世の竪穴建物跡



裏　　表

図18　表「迷故三」裏「南無」と書かれた板（木簡）

# （4）上五明条里水田址（かみごみょうじょうりすいでんし）

（県道長野上田線力石バイパス関連）

**所在地及び交通案内**：坂城町上平字出浦
県道長野上田線の村上交差点から長野方面へ約500m向かった北西側

**遺跡の立地環境**：千曲川左岸の沖積地

**発掘期間等**

| 調査期間 | 調査面積 | 調査担当者 |
|---|---|---|
| 19.5.7～12.11 | 7,339㎡ | 曽田　明　寺内貴美子<br>山崎まゆみ |

**検出遺構**

| 遺構の種類 | 数 | 時期 |
|---|---|---|
| 竪穴住居跡 | 29 | 古墳　平安 |
| 掘立柱建物跡 | 11 | 古墳　平安 |
| 溝跡 | 15 | 古墳　平安 |
| 土坑 | 258 | 古墳　平安 |
| 墓跡 | 2 | 平安 |
| 流路跡 | 2 | 古墳　平安 |
| 水田 | | 不明（平安以降） |

図19　上五明条里水田址の位置（1：50,000坂城）

**出土遺物**

| 遺物の種類 | 時期・内容 |
|---|---|
| 土器・陶磁器 | 古墳（土師器甕・坏・高坏、須恵器・横瓶）、平安（土師器甕・坏・甑・羽釜・足釜、灰釉陶器坏、緑釉陶器皿） |
| 鉄製品 | 平安（刀子、釘、紡錘車、鉄滓） |
| 石製品 | 古墳（石製模造品、紡錘車、子持勾玉）<br>平安（石帯） |
| その他 | 平安（瓦塔破片） |

## 沖積地に広がる集落跡

今年度調査区は、沖積地内の微高地上に該当する。検出面は2面で、第1検出面では平安時代後期（10世紀主体）、第2検出面では古墳時代後期（6

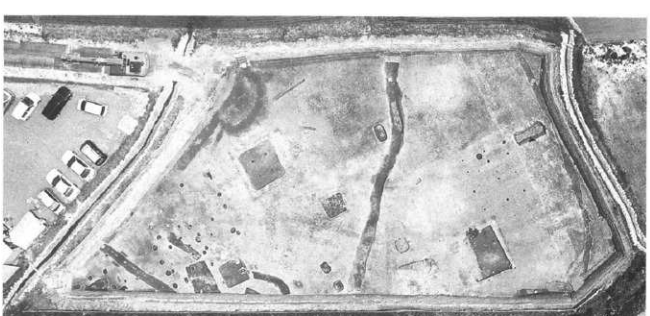


図20　平安時代の集落跡（③b区）

図21　鉄鐸が出土した平安時代後期（10世紀後半）の木棺墓

世紀主体）の集落跡をそれぞれ調査した。両時代の遺構は、隣接する竹内製作所の敷地内でも検出されていて（坂城町教委2004）、集落跡は付近一帯に広がるものと考えられる。

今年度の調査で注目すべき遺構としては、③b地区で検出された木棺墓があげられる（図21）。隅丸長方形を呈する木棺墓は、ほぼ南北方向に長軸を持ち、掘方の規模は長軸2.0m、短軸1.2m、深さ45cmを測る。残存していた歯の位置から、被葬者は頭部を北側にして安置されたとみられる。

副葬品には土師器坏７個体、小形甕１個体、鉄製紡錘車２点、鉄鐸８点が認められた。坏は頭部西側の棺外に置かれたものと推測される。一方、鉄製紡錘車と鉄鐸は棺内部に副葬されたと考えられる。鉄製紡錘車は頭部付近（歯の西側）から、鉄鐸は腰から膝付近にまとまって出土した（図22）。

特に、鉄鐸は松本平やその周辺部に多く、木棺墓の出土事例としては、北信地方では初見と思われる。出土状況などとともに、鉄鐸をもつ有力者が周辺の集落に居住していた事実を裏付ける重要な資料となろう。

来年度は、今年度調査区の南側および西側で調査が予定され、特に西側は試掘調査結果などから水田城であったと推測される。集落城と水田城の範囲や、その境界付近の様相を把握することが調査の課題となろう。

**参考文献**

坂城町教委　2004『坂城町町内遺跡発掘調査報告書』

図22　まとまって出土した鉄鐸

# （5）近津遺跡群（ちかついせきぐん）

（中部横断自動車道関係）

**所在地及び交通案内**：佐久市長土呂（ながとろ）字北近津ほか
上信越自動車道佐久ICの北西1.5km。国道141号西側の小諸市境。

**遺跡の立地環境**：浅間山麓に広がる火砕流台地上

**発掘期間等**

| 調査期間 | 調査面積 | 調査担当者 |
|---|---|---|
| 19.8.31～12.20 | 6,600㎡ | 廣瀬昭弘　桜井秀雄　上田真 |

**検出遺構**

| 遺構の種別 | 数 | 時期 |
|---|---|---|
| 竪穴住居跡 | 6 | 古墳　平安 |
| 土坑 | 8 | 陥穴3含む |
| 溝跡 | 3 | |

**出土遺物**

| 遺物の種別 | 時期・内容 |
|---|---|
| 土器・石器 | 縄文～平安土器、石器 |

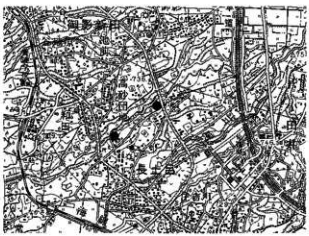



図23　近津遺跡群の位置（1：50,000小諸）

## 田切りの縁につくられた集落跡

厚い軽石粒堆積物に覆われた緩やかな浅間山裾野の台地では、河川の浸食による田切り地形が発達している。近津遺跡群はこの台地上で、北側を湧玉（わくたまがわ）川の田切り崖に、南側を浅い田切りの谷に画された帯状に広がる遺跡である。

当事業では田切りに沿って遺跡を縦断するように延長700m程が調査対象となる（図24）。今年度はこの内、東端の1区と西端の8区が調査対象となった。

調査の結果、古墳時代前期・後期、平安時代後半の住居が散在的に分布する状況であった。

1区では、田切り地形に並行する浅い谷（田切

図24　近津遺跡群の調査範囲（1／10,000）

図25　田切りの縁につくられた古墳時代の集落跡（8区）

り）状の凹みをもつ、やや起伏に富んだ旧地形が明らかとなった。平安時代の住居跡は高位の平坦部に構築されていた。一方、谷状に低まったところでは縄文時代の陥穴土坑が軸をそろえて2基検出された。

8区は、全体に北側の田切りに向かい緩く傾斜する。古墳時代後期の住居跡2軒がその中でもやや高位の平坦面に構築され、古墳時代前期の住居跡1軒はやや傾斜を下った田切りの谷に近い部分に構築されていた。

**大きな集落近くの小さな集落**　近津遺跡群の調査は来年度も継続されるが、田切りの縁につくられた古墳時代から平安時代にかけての小さな集落跡である可能性が高い。

一方、近津遺跡群から南西へ1kmほど田切りを下った西近津遺跡群では、弥生時代後期から古墳時代、平安時代にかけての大規模な集落跡が見つかっている。同じ田切り地形上に形成された集落として、その差異は大きなものがある。近津遺跡群の集落構造については今後の調査成果とともに、周辺地域との関係も重視する必要があろう。

図26　カマドを持つ古墳時代の住居跡

図27　1区谷部につくられた縄文時代の陥穴土坑

## （6）西近津遺跡群（にしちかつ）

（中部横断自動車道関係）

**所在地及び交通案内**：佐久市長土呂字森下ほか

小海線の中佐都駅から市道近津中佐都線を近津神社方向（北東）へ約300m。市道の南側は周防畑遺跡群である。

**遺跡の立地環境**：浅間山麓に形成された田切り地形の末端近く、標高705～711mの台地上。北側は湧玉川に切られ、南側は濁川（にごり）の氾濫低地に向かって緩やかに傾斜する。

**発掘期間等**

| 調査地積 | 調査面積 | 調査担当者 |
|---|---|---|
| 19.4.10～12.20 | 16,500㎡ | 柳澤光、寺澤政俊、上田真、西香子、川崎保、藤松慎一郎、古賀弘一、内堀団、石丸敦史、高野晶文、鈴木時夫 |

**検出遺構**（　）内は18・19年度の総数

| 遺構の種類 | 数 | 時期 |
|---|---|---|
| 竪穴住居跡 | 351（528） | 弥生後期～平安 |
| 掘立柱建物跡 | 54（68） | 古墳後期～平安 |
| 溝跡 | 40（50） | 弥生後期～鎌倉 |
| 土坑 | 1649（2065） | 縄文～平安 |
| 円形・方形周溝墓 | 12（12） | 弥生後期（円11、方1） |
| 古墳 | 2（2） | 古墳 |
| 遺物集中 | 4（4） | 縄文 |
| 柱穴列 | 1（1） | 縄文～平安 |
| 石集中 | 1（1） | 古墳～平安 |

図28　西近津遺跡群の位置（1：50,000小諸）

**出土遺物**

| 遺物の種類 | 時期・内容 |
|---|---|
| 土器・陶器 | 縄文後期（深鉢、注口）、弥生（鉢、高坏、壺、甕）、古墳（器台、高坏、甕、壺、瓶）、奈良・平安（瓶、円面硯、瓦片、坏、碗、甕、壺、瓶）、中世（青磁碗片） |
| 土製品 | 紡錘車、手捏ね土器、玉、鞴羽口 |
| 石器　石製品<br>ガラス製品 | 縄文（石鏃、石匙、打製石斧）、弥生（磨製石斧、磨製石鏃、砥石、勾玉、管玉、ガラス玉）、古墳・奈良・平安（紡錘車、石製模造品、砥石、コモ編み石、擦り石、水晶原石） |
| 金属器 | 弥生（銅鏃、鉄剣、銅鏡片）、古墳・奈良・平安（銭貨、耳環、銅印、鳥具、鉄鏃、鉄釘、鑿？、刀子、毛抜き、紡錘車、鉄斧、鉄滓ほか）中世（銭貨） |
| 骨・貝 | 弥生（獣骨）、古墳（カワシンジュガイ？）、奈良・平安（人骨、ウシ骨）、中世（ウマ・ウシ骨） |
| 炭化物 | 炭化材、炭化米、炭化種子 |

### 切れ目なくつづく複合遺跡

調査は平成18年より20年度までの3ヵ年計画で進められている。調査区は南北に長く、延長400mにおよぶ。調査面は表土下20～70cmと浅く、概ね黄褐色をした浅間軽石流堆積層の上面にあたる。重複する遺構を調査した結果、水はけのよい台地上には弥生時代から古墳、奈良・平安時代、さらに中世鎌倉時代まで、主として居住の場として利用されていたことが明らかになった。以下時代ごとの特徴を記す。

図29　幾期にもわたる集落が掘り出された調査区（北側上空より）

**弥生時代後期の大溝**（図30）　平成18年の調査で発見された弥生時代後期の超大型竪穴住居跡（年報23参照）の北方100mで、大規模な溝跡がみつかった。東西方向にまっすぐ掘り込まれていて、規模は調査区内だけで東西長40mおよび、幅3.0×深さ1.3mを測る。断面形は逆台形状で壁面の傾斜はきつく平滑である。溝に埋没した黒色土中より赤彩された土器片が多数出土した。

この溝は埋没後の弥生時代後期の竪穴住居跡を数軒壊していることから、弥生時代後期でも比較的新しい時期に集落の北端を区切るような位置に造成されたと推定している。

**新発見された古墳**（図31）　遺跡の最北端、湧玉川の崖上から古墳時代前期の方墳２基が東西に隣接して発見された。墳丘および埋葬施設は削平されている。東側の古墳１基の規模は周溝外側で東西17.5×南北16.5mである。周溝より高坏や壺、甕などが十数個体出土している。西側古墳の大部分は調査区外にあるが、規模は東側古墳とほぼ同じであろう。また、東側古墳から南東30mにも古墳周溝と考えられる溝跡がみつかっていて、古墳群を形成する可能性もある。

佐久地域では前期古墳の発見は珍しく、希少な調査事例となった。

図30　調査区をつらぬく弥生時代の溝跡（西より）

図31　姿をあらわした古墳の周溝（南より）

図32　調査区全体図（1：2,000）

**広く展開する古墳時代の集落**（図33）　前述の古墳に並行する時期の集落はみつかっていない。中期の竪穴住居跡は前期古墳の南に隣接するように3棟みつかった。いずれも一辺が8m程ある大型住居跡でカマドはない。これらの住居から玉や鏡の石製模造品が100点以上出土している。当時古墳自体も現存していたとすると、住居や集落と古墳とはどのような関係であったのか興味深い。

古墳時代後期になると調査区全体に広く住居跡や掘立柱建物跡が重複して多数分布し、大規模な集落が継続して展開していたことがわかる。

特に調査区中央には一辺10mもある竪穴住居跡が東西方向に2軒並ぶ。主柱穴は4つで北壁中央にカマドが設置されている。南側入口は凸状に張り出し、そこに深い柱穴がある。住居壁際の床面には細い溝が幾筋も平行して見つかっている。間仕切り用か寝間の土台跡か、用途は不明である。

**「郡」と刻書された土器**（図34・35）　奈良時代には、二十数棟もの掘立柱建物跡が調査区中央に群列する。一方、同期の竪穴住居跡は調査区全体に分布していて、築造位置に違いがある。

掘立柱建物同士は重複し、軸方向にも差異があることから、築造は数期に分かれると理解できる。

こうした建物群の評価について、現地指導を受けた山中敏史、宮本長二郎両氏から、建物の平面積は竪穴住居跡と同程度の小規模なものが大半であることなどから、公的施設というより地方有力者の居宅跡ではないかという指摘を得ている。

特筆される遺物としては建物跡の柱穴から「郡」と焼成前に刻書された須恵器坏片がみつかった。文字は底部外面中央に正しい筆順の達筆で記されている。「郡」は郡衙を示すと考えられ、この土器自体は郡衙専用に焼かれたものとみられる。ただし坏の内面中央は磨耗し、硯に転用されているため、出土地点が直接郡衙を示すとはいえない。

ほかに円面硯、瓦片など、郡衙あるいは寺院跡に関連するような遺物も出土している。こうした調査状況は推定される佐久郡衙がこの近隣に所在していた可能性をより高める要素となる。来年度調査区および周辺地区の調査成果が期待される。

図33　立ち並ぶ古墳後期の大型住居跡（西より）

図34　奈良時代の掘立柱建物跡（北より）

**銅印の発見**（図36）　平安時代の集落は弥生時代の集落と重なる調査区南側に集中する。集落の一角にある小規模な竪穴住居跡より青銅製の印章（銅印）が完全な形でみつかった。出土状態から住居の埋没過程に廃棄されたと考えられる。銅印は県内７例目の発見であり、時期の特定できる調査例は全国的にも少なく貴重な資料である。

銅印は鋳銅製で印面は方形、鈕は花のつぼみ状で中央に直径４㎜程の丸い穴が開く。寸法は高さ32㎜、印面縦33×横33㎜、重量52.05ｇである。

印面には楷書体で「紀子私印」という４文字が鋳出されている。１文字目の旁部は明確に判読できない。この印字の理解として、資料を実見していただいた平川南氏より「確定しないが、１文字目の旁部を“辛”とみて、“金辛”を辛金（からかね）と２文字で考え、４文字で“辛金子私印（からかぬじの子○のしいん）と想定する。からかぬじ（韓鍛冶・韓鍛）は古代渡来系鍛冶工人の名字にみられる。」といったご教示を受けている。

**集落の終わり**　中世の集落は調査区南隅にだけ分布する（昨年度調査）。そして調査区全体には集落にかわり縦横に大小の溝が掘り込まれる。それらは幹線と支線との分岐を備え、地形の傾斜に則した方向性があることから利水目的と考えるが、関連する遺構はない。溝は遺物から鎌倉時代には埋没し、埋没途上の層にはウシやウマの骨が集中して出土する部分がある。骨には解体したような痕跡もあり、意図的に廃棄された様相と理解している。これ以後の遺構や遺物はみつかっていない。

**今後の調査**　来年度で総面積約25,000㎡の調査を終える予定である。この地点には弥生時代後期から中世まで、各期における地域の有力者の住まう集落が繰り返し形成されていたことが明らかになってきている。またそれらの集落はいずれも大規模であり、調査区内には収まりきらない。

遺跡群全体からみればごく一端の調査かもしれないが、ここで入手できた情報量（資料）は膨大である。そしてそこから、佐久地域の古代史研究をより一層深める、多種多様な要素が抽出できるだろう。

図35　焼成前に「郡」と刻まれた須恵器

図36　銅印の印面には押印した赤色顔料が残る

# （7）周防畑（すぼうばた）遺跡群

（中部横断自動車道関連）

**所在地及び交通案内**：佐久市長土呂・塚原

JR長野新幹線・小海線佐久平駅の西約500m。

**遺跡の立地環境**：濁（にごり）川右岸の微高地上

**発掘期間等**

| 調査期間 | 調査面積 | 調査担当者 |
|---|---|---|
| 18.4.16～7.9 | 1,900㎡ | 上田　真　川崎　保<br>寺澤政俊　藤松慎一郎 |

**検出遺構**

| 遺構の種類 | 数 | 時期 |
|---|---|---|
| 竪穴住居跡 | 14 | 弥生、平安、不明 |
| 掘立柱建物跡 | 3 | 平安3 |
| 円形周溝墓 | 7 | 弥生 |
| 溝跡 | 4 | 弥生、平安、中世 |

**出土遺物**

| 遺物の種類 | 時期・内容 |
|---|---|
| 土器・土製品 | 弥生、平安（灰釉陶器）、弥生（勾玉） |
| 石器・石製品 | 弥生（ヒスイ製勾玉）、平安（砥石） |
| 金属器 | 弥生（銅鏃）、平安（刀子） |

### 濁川氾濫原の微高地上の集落跡

周防畑遺跡群は、北東―南西方向が約3kmにおよぶ長大な遺跡群である。北東部は浅間山麓の

図38　多数の支柱穴を持つ竪穴住居跡（SB77）

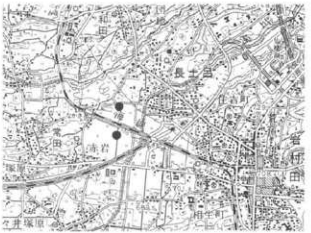



図37　周防畑遺跡の位置（1：50,000小諸）

田切り地形を明瞭に残すが、南西部は濁川の氾濫により比較的平坦になる。調査区は後者を南北に横断する。昨年度、試掘調査で3ヶ所の微高地を検出し、このうち弥生時代後期と平安時代の集落跡のみつかった2・3区、弥生時代中・後期の集落跡と墓跡群が検出された5区の2ヶ所を調査した。今年度は、昨年度に引き続き2区と5区の調査を行った。

**弥生・平安時代の集落**（2－③区）　昨年度調査の残り部分も含めて、弥生時代の竪穴住居跡3軒、平安時代の竪穴住居跡4軒と掘立柱建物跡3棟、時期不明の竪穴住居跡1軒などが検出された。昨年度調査から、遺構密集地区であったと考えられるが、ほ場整備によって標高の高い北東部が完全に削平され、南～西部も掘り込みの浅い遺構は削平されたとみられ、検出遺構はかなり希薄である。

このうち、唯一残りのよかった弥生時代の竪穴住居跡SB77（図38）は7.2×5.5mとやや大型で、6個の主柱穴の周囲に8個の支柱穴を持つ。床面からは完形の短頸壺が出土している。

図39　SB77炉出土の土器

**弥生時代の墓域と居住域**（5区－③・④区）

5－③・④区では、弥生時代後期の円形周溝墓7基（昨年度からの継続調査2基）、竪穴住居跡6軒（同・2軒）ほかの遺構が検出された。これらの時期・内容は、隣接した昨年度調査と同様であり、資料が充実する結果となった。

今年度、円形周溝墓SM507周溝の外側から長さ5.5cm、幅3.0cm、厚さ2.2cm、重さ60.6gのヒスイ製勾玉1点、SM507に隣接する竪穴住居跡SB522の床面直上から長さ6.2cm、幅3.4cm、厚さ3.3cm、重さ59.0gの土製勾玉1点が出土した。いずれの遺構も弥生時代後期と考えられ、包含層から他時期の資料が認められないため、これらの勾玉も同時期の所産と考えたい。このヒスイ製勾玉は弥生時代および古墳時代も含めて、調査資料としては県内最大である。

なお、弥生時代のヒスイ製勾玉は、単なる装身具として副葬されたにとどまらず、当該期の威信財（権力の象徴）ではないかとされている。また、土製勾玉もひじょうに大形であり、ヒスイ製と同様の性格が想定される。これらの勾玉が出土したことは、今後、周防畑遺跡群の性格を考える上で重要な資料である。

図40　円形周溝墓SM518の調査風景（中央の高まりは、周溝墓の主体部。土器棺が埋納されていた）

図41　SM507付近から出土したヒスイ製勾玉

図42　土製勾玉が出土した住居跡（SB522）

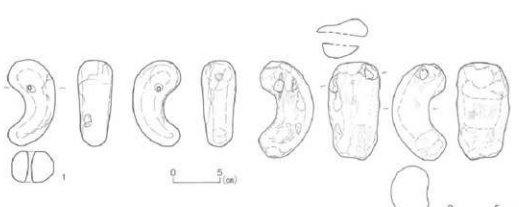



図43　周防畑遺跡出土勾玉（1：ヒスイ製　2：土製）

# （8）御社宮司遺跡

（国道20号坂室バイパス関連）

**所在地及び交通案内**：茅野市宮川字仲田
中央国道車道諏訪 IC から国道20号線を甲府方面に約 4 km

**遺跡の立地環境**：諏訪盆地の南側、上川と宮川の氾濫で形成された沖積低地

**発掘期間等**

| 調査期間 | 調査面積 | 調査担当者 |
|---|---|---|
| 19.4.16～8.2 | 2,500㎡ | 河西克造　藤原直人 |

**検出遺構**

| 遺構の種類 | 数 | 時期 |
|---|---|---|
| 掘立柱建物跡 | 10棟 | 中世（竪穴を伴うものあり） |
| ピット列 | 2 基 | 中世（柵列） |
| 土坑 | 138基 | 中世 |
| 溝跡 | 1 条 | 中世 |
| 竪穴 | 21基 | 近世以降 |

図44　御社宮司遺跡の位置（1：50,000高速）

**出土遺物**

| 遺物の種類 | 時期・内容 |
|---|---|
| 土器・陶磁器 | 平安（灰釉陶器）、中世（カワラケ、内耳土器、山茶碗、常滑、青磁）、近世（碗、皿） |
| 金属器 | 中世（青銅製の椀の骨金具、鉄製の鎧金具、鉄釘、刀子、銭貨） |
| その他 | 縄文（黒曜石）、中世（土錘、竹、炭化種実、骨） |

### 御射山道沿いに広がる鎌倉時代の集落

御社宮司遺跡は、JR 茅野駅がのる低位段丘より一段下がった低地に広がる遺跡である。

今年度の調査では、遺跡の北限である田沢沢川の近くで、掘立柱建物跡と土坑などで構成された

図45　田沢沢川近くで見つかった鎌倉時代の集落跡（●●は御射山道比定地）

図46　常滑の甕や鞍金具が混じるカワラケ溜まり（SK99）

図47　厩と思われる掘立柱建物跡（ST102、SB02）

図48　カワラケ溜りから見つかった鞍の爪先金具

鎌倉時代（13世紀）の集落が確認された。集落は一辺約４ｍ四方の竪穴（SB02）を伴う掘立柱建物跡（ST102）を中心に、周囲に比較的小規模な掘立柱建物跡が点在している。掘立柱建物跡に囲まれた形で土坑がまとまっており、大型の円形土坑（SK64）からは多量な炭化種実が、方形土坑（SK99）からは13世紀代のカワラケの一括廃棄（カワラケ溜まり）が確認された。カワラケ溜まりには、鞍の爪先に装着した金具（沓金具）など、馬具の装飾品（青銅製、鉄製）が含まれており、カワラケとともに廃棄したものと考えられる。また、調査区内を通る現道（中世「御射山道」比定地）直下からは約1.5ｍ間隔で直線的に並走する２列のピット列が確認され、道路関連遺構（柵列）と考えられる。

上記のST102は構造的に厩と考えられ、調査区隣接地には「厩の尻」の小字が残る。今回発見された鎌倉時代の集落は、諏訪社と御射山社とを結ぶ重要な道「御射山道」沿いに広がる厩的性格の強いもので、諏訪社（御射山祭）と密接な関連をもっていたことが想定される。

# （9）井戸端遺跡

（飯喬道路関係）

**所在地及び交通案内**：飯田市千栄字下村

中央自動車道飯田ICから国道151号線経由で天竜峡方面へ15km。JR飯田線千代駅から東へ約800m。

**遺跡の立地環境**：南西方向に緩やかに傾斜する段丘上に位置する。西は天竜川の急崖で、北は西の前沢川、南は和城川の谷となる。標高は約450mを測る。

**発掘期間等**

| 調査期間 | 発掘面積 | 調査担当者 |
|---|---|---|
| 19.8.27～12.12 | 3,800㎡ | 藤原直人　白沢勝彦 |

**検出遺構**

| 種別 | 数 | 時期 |
|---|---|---|
| 掘立柱建物跡 | 5 | 中世・近世 |
| 溝 | 14 | 中世・近世 |
| 土坑 | 288 | 中世～近代 |

図49　井戸端遺跡の位置（1：50,000時又）

**出土遺物**

| 種類 | 時期・内容 |
|---|---|
| 土器 | 縄文（土器）、中世（内耳、陶器）、近世・近代（陶磁器） |
| 石製品・石製品 | 縄文（敲き石）、中世以降（砥石） |
| 金属器 | 近世（刀子、釘） |

**天竜川左岸、丘陵上の中世～江戸の集落跡**

当事業では、等高線に沿って遺跡を縦断するように延べ800m程が調査対象となり、西側の高地を1区、中央の小谷を2区、東側の高地を3区とした。調査の結果、各地区からは中世、近世の遺物とともに掘立柱建物跡や柱穴群、溝跡が検出された。全地区で検出された土坑は、平面形が円形で、稀に方形を想定させる隅丸方形もみられた。

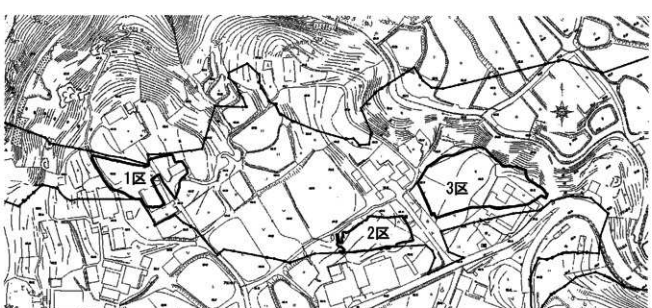



図50　調査区全体図（s=1/2,000）

図51　調査区全景（破線内が路線を示す）

規模は直径15～30cmで、深さは30cm以上のものが主体的であった。掘立柱建物跡を組むことができなかったものが多いが、柱穴とみられる。また、規模が小さく直径が10cmに満たない例は杭の痕跡の可能性もある。一方、直径40cmを超えるものは少数で、深さも浅い例が多い。これらの遺構の性格は不明である。

1区は、中央部の小谷によって東側の尾根と画され、独立丘状の高地となっている。その頂上部近くの北西斜面からは、中世とみられる掘立柱建物跡が3棟確認されている。

2区は中央の谷上部の斜面にあたり、「井戸端」という小字名で、本遺跡の由来となった地区である。「井戸」はその緩斜面の下の平坦部に移行する地点に設けられていた。井戸という名称ではあるが、斜面からの湧水を集めた溜池で、10年ほど前まで千栄・下村地区の人々が管理・使用していた施設である。井戸・井戸周辺部のトレンチ調査では、近代を遡るような井戸跡や水辺遺構は検出されず、遺物の出土もみられなかった。

この他、2区斜面部では、58基の土坑と溝跡が7条検出されている。溝跡の平面形は斜面の下方向に開いた「コ」の字状で、溝に囲まれ範囲は長さ約5～8m、奥行き約1～1.5mであった。溝の幅は約50cm～80cmを測る。溝跡のうちの1条（SD06）からは、中世の内耳土器が出土している。

類例は北信地域の北平遺跡や塩崎城見山砦遺跡に見ることができる。そこでは、山城に造成されたテラス状遺構（段状遺構）に関わる溝と考えられている。

3区は東側高地の西側斜面で、ほぼ全面にわたって1区・2区と同じような柱穴が散在していた。3区西端では、掘立柱建物跡を想定できる配列が3棟確認されている。また、2区で見られた溝状遺構の類例が3条検出されている。ただし、出土遺物が近世であることから、2区の溝状遺構とは性格が異なる可能性が考えられる。

井戸端遺跡の北側には、谷を挟んで下村遺跡と中世の知久氏の出城といわれる鷲ヶ城跡が存在する。今回の調査で、中世山城に類例のある遺構が検出されたことから、この地区も山城に関連する場所であったのか、あるいは、関係する集団が井戸端の井戸（水場）を中心として居住していた場所の可能性が考えられる。

図52　掘立柱建物跡（1区）

図53　調査中の溝跡（画面右側）

# Ⅲ　整理作業の概要

| 遺跡名 | 所在地 | 事業名 | 整理の内容（作業） | 整理中の主な成果 |
|---|---|---|---|---|
| 千田 | 中野市 | 千曲川築堤 | 出土遺物の注記ほか | |
| 表町 | 飯綱町 | （主）長野荒瀬原線 | 7月より整理作業開始。全体図作成、遺物実測など。遺跡の全体像を把握 | 中世陶器は、16世紀前半に集中する点が判明。$^{14}$C年代測定で、Tピット内出土炭化物は縄文時代後期頃の値 |
| 傳社宮司 | 茅野市 | 一般国道20号<br>坂室バイパス | 8月より整理作業開始。遺構図作成、遺物実測・トレースなど、遺跡の全体像を把握 | 中世の土坑出土の青銅製品が、鞍の爪先金具と判明。出土例は皆無で、さらに諏訪社との関連性がうかがえる貴重な資料と位置づけられた（馬の博物館） |
| 樋井・阿弥陀堂 | 茅野市 | （都）3.4.2号大年線 | 報告書掲載図版作成、原稿執筆 | |
| 東高遠石宮<br>武家屋敷 | 伊那市 | 一般国道152号高遠バイパス、および旧馬島家庭園整備事業 | 本文参照 | 本文参照 |
| 自山 | 飯田市 | 一般国道470号<br>飯喬道路 | 報告書掲載図版の作成・文章執筆ほか | |
| 山本大塚 | | | 本文参照 | 本文参照 |
| 寺沢 | | | 報告書掲載図版の作成・文章執筆ほか | |
| 並松 | | | | 遺構なし。縄文時代・近世遺物若干出土。 |
| 竹佐中原 | | | 本文参照 | 本文参照 |
| 森林 | | | 報告書掲載図版の作成・文章執筆ほか | 旧石器、縄文中期の小竪穴、弥生後期末の住居跡。旧石器は竹佐中原遺跡と同様なホルンフェルス製石器を確認 |
| 下り松 | | | | 縄文中期中葉末～後葉の小集落。土器様相から三時期に分けることができる。遺構に伴わないが、縄文早期末～前期初の玦状耳飾も出土 |
| 太鼓洞 | | | | |
| 横山 | | | | |
| 久米ヶ城跡 | | | | |
| 久米大畑 | | | | |
| 久米上田 | | | | |
| 久米上ノ平 | | | | |
| 久米上ノ平南 | | | | |
| 本洞 | | | | |
| 川路大明神原 | | | 平成18年度から本格整理。本年度は土器復元・遺物実測・遺構図トレース等を実施 | 本文参照 |

### （1）東高遠若宮武家屋敷遺跡

（一般国道152号　高遠バイパス関連・県宝旧馬島家住宅庭園整備関連）

平成16年に高遠町（現伊那市）教育委員会、平成17・18年度に当センターが発掘調査を行い、今年度は、報告書刊行に向けた整理作業を行った。

**19世紀前半代の整備事業**　東高遠若宮武家屋敷遺跡は、史跡高遠城跡の北西部、藤沢川の河岸段丘上に位置する。調査面積は2,410㎡である。

高遠には17世紀以降の絵図面が複数残っており、武家屋敷の変遷過程を発掘によって確かめられるかが課題であった。調査では上・下２枚の整地面を検出したが、陶磁器の検討を進めた結果、いずれからも18世紀末～19世紀代前半であることが判明した。この他、明確に18世紀以前に遡ると断定できる遺構は確認できなかった。

19世紀前半代の第１整地層は調査区のほぼ全域で確認され、上面で検出された礎石や硬化面は現在まで使われてきた。このように、19世紀前半代に、若宮武家屋敷区画の再整備がなされ、その後200年弱継承されてきたことが判明した。

**屋敷間取り図・現存建物・文書と遺構の関係**　天保年間（1840－1843）に作成された『御家中屋舗絵図』には各屋敷の詳細な間取り図があり、現存建物に対しては建築学からの成果がある。さらに『馬嶋家由緒書』などの文書も残されている。これらと発掘成果との整合性も課題であった。

第１整地面で検出された建物跡については、礎石の配置など絵図と一致する部分が認められた。また、遺構で確認できた建物の増改築や庭の改造痕跡について、絵図や文書、伝承などで確認することができた。一方、絵図や現存建物にみられた重要な増改築の可能性について、整地面より下層（地下の遺構）で確認できない面もみられた。この点については、今後の大きな課題である。

**埋納容器の調査**　絵図・文書などに記載がない遺構では、土間の整地面下で出土した埋納容器がある。類例は東京の江戸遺跡などにもあり、胞衣を埋納したとされている。各家で容器などに違いがあり、江戸時代の習俗解明に良好な資料となった。

この他、各武家屋敷間で、建物の地業や庭の遺構などに差異が認められた。これらの要因をはじめ、武家屋敷の実態解明には、文献史学などと協業で取り組まなければならない課題も多い。

図54　第１整地面上で検出された建物跡（現存建物の基礎としても使用されていた）

## （2）下り松遺跡・山本大塚遺跡ほか

（一般国道474号飯喬道路関連）

飯喬道路関連では標記の２遺跡を含め、16遺跡の整理作業を実施している（表３）。本年度、川路大明神原遺跡については、土器復元、遺物実測・計測、遺構図トレース等を行った。その他の遺跡については、遺物実測・計測、挿表の作成、遺構・遺物図版の作成、文章執筆等の作業を行った。

**縄文時代中期の地域間交流**　川路大明神原遺跡は縄文時代中期初頭から後葉の集落である。出土した土器についてみると、中期初頭では、在地土器に混じって、前期末葉～中期初頭の関西系土器（大歳山式、船元１式）・東海系土器（北裏Ｃ１式）が認められる。後葉でも、東海系土器（中富式）が検出されており、該期における地域間交流を知る好資料であることが明らかになってきた。

**縄文土器付着物の放射性炭素年代測定**　下り松遺跡は、縄文時代中期中葉末～後葉初めを主体とする小規模な集落遺跡である。この時期、下伊那では細隆線文土器が特徴的・普遍的に認められる。

整理作業の一環として、竪穴住居跡 SB01から出土した細隆線文土器の胴部内面に付着していた炭化物を試料として、放射性炭素年代測定（AMS）を実施した。測定により得られた$^{14}$Ｃ年代は4438±39yrBP（半減期5568年）、暦年較正年代（１σ＝68.2％）は3,330～3,230BC（24.7％）・3180～3,160BC（2.1％）・3,120～3,010BC（41.4％）である。この年代をどう評価するかは今後の課題であるが、細隆線文土器のみならず、当該期土器型式の暦年代比定にあたっての材料を得ることができた。まずは、こうしたデータを積み重ねてゆくことが必要であろう。

**近世墓出土の発火具**　山本大塚遺跡で注目されるのは、近世の土葬墓である。SK03とSK04の２基が軸を揃えて並ぶ。両者とも６枚の銅銭が錆着した状態で出土し、整理作業の過程で、取り外してみると、すべて寛永通宝であることがわかった。

SK03の寛永通宝は文銭２枚を含む。SK04は、六道銭の他に、キセル・火打金・火打石・硯・砥石などが墓壙底の15cm 程の範囲にまとまって検出された。キセルは雁首の首部に肩がついて脂返しが湾曲し、かつ火皿と首部の接合部に補強帯がつく形態である。

火打金は、緩やかな山形を呈する体部の両端を細く延ばして上部中央に曲げ合わせ、さらにその端部を外巻に巻いた形態である。火打石は黒曜石製で長さ2.1cm、重さ3.35ｇあり、側縁には細かな剥離が観察される。近世都市江戸では、使用石材の大半は石英であるが、チャートや黒曜石を用いた火打石も出土している（小林1993）。SK04は、確認例が少ない黒曜石製の火打石が火打金とセットで検出された希少な事例となろう。火打石は、注目度が高まりつつあるとはいえ、長野県内での報告例は未だ少ない。今後、近世遺跡だけでなく、出土した石英・チャート・黒曜石等の硬い石に注意を向ける必要がある。

**参考文献**

小林　克　1993「江戸の火打石」『史叢』第50号

図55　下り松遺跡の$^{14}$Ｃ年代測定の資料土器

図56　山本大塚遺跡 SK04の火打金と火打石

（3）竹佐中原遺跡

（一般国道474号飯喬道路関連）

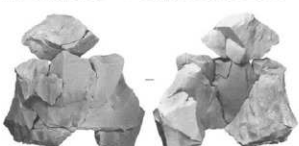
**整理作業の経過**　平成18年度に発掘調査を終了し、本格整理作業を開始した。平成19年3月には科学分析等検討会を行ない、石器石材と石器包含層の年代に関わる検討をおこなった。7月の調査指導委員会では、報告書刊行に向けて①石器群の分類と、②報告書の内容（目次）について指導を受けた。すでに報告書が刊行されているA地点、B地点の石器群も含め、竹佐中原遺跡全体での分類を再検討し、特定器種を抽出するのではなく、石器群全体の構造を見据えた分類とすることとし、報告書では発掘調査の事実報告に加え、各指導委員より寄稿していただくこととなった。

整理作業は、石器群の分類、計測、接合、実測・トレース、図版組をおこなった。

**石器接合の成果**　ホルンフェルスの石器群であるA地点とC地点の地点間接合は確認できなかった。また、A地点のホルンフェルス石器群で新たな接合が確認され、14点が同一母岩であることが判明した(図57)。実物での接合が困難であるため、レプリカを作成し接合状態を確認した。母岩は18×18×15cm以上の大形の亜角礫で、中心部分を除いた礫周辺部のみが遺跡に残されている。

C地点では13例の接合資料を確認したが、母岩の形状を確認できる程度に復元されたものは認められない。また、大形剥片を石核とした剥片剥離がおこなわれていることが確認された。石核となる剥片は、A地点で出土した大形の剥片石器と同じ程度の大きさである。

**微細遺物の抽出、黒曜石の問題**　C地点の調査では採取した直径3mm以上のすべての石を採取し、整理作業で点検したところ、発掘調査で確認した遺物に加え、多数の剥片、砕片などを確認した。C地点の調査区から出土した人工遺物は700点を越えた。この中に、撹乱出土のものを含め黒曜石の砕片が9点含まれており、C地点の石器群に黒曜石が伴うのか否か、結論がでていない。現在、縄文時代の石器を含めて産地推定分析を進めており、その分析結果もふまえてC地点出土の黒曜石の所属時期について検討する予定である。



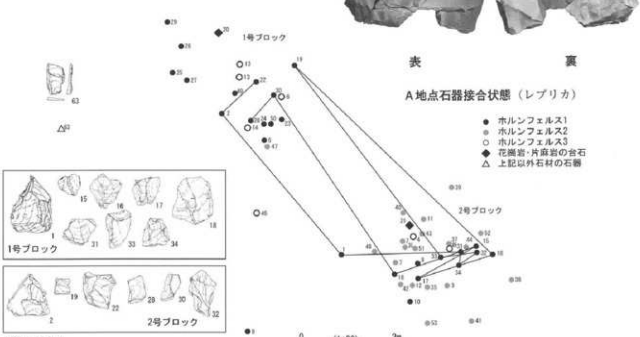




図57　A地点のホルンフェルスの石器接合関係

# Ⅳ　普及公開活動の概要

## （1）展示会・講演会

### ①　平成18年度長野県埋蔵文化財センター速報展「長野県の遺跡発掘2007」

＜長野県立歴史館会場＞

会　期：平成19年３月17日(土)～５月13日(日)

来館者：11,414名

内　容：超大型住居の再現展示や体験広場が好評で、年々来館者数が増加している。

遺跡報告会・講演会　４月14日（土）

遺跡報告　西近津遺跡群ほか２遺跡

講演「古代・中世の村落」

京都大学教授　金田章裕氏　聴講者120名

体験広場　GW 中の土日祝日　参加者675名

＜長野県伊那文化会館会場＞

会　期：平成19年７月５日(木)～７月25日(水)

来館者：1,029名

遺跡報告会・講演会　７月14日（土）

遺跡報告　高遠武家屋敷遺跡ほか２遺跡

講演「高遠城とその城下町を考える」

信州大学教授　笹本正治氏　聴講者160名

### ②　県庁ロビー展「長野県の遺跡発掘2008」

会　場：長野県庁１階ロビー

会　期：平成20年２月５日(火)～２月15日(金)

内　容：県文化財・生涯学習課主催事業に協力し、県庁を訪れる人を対象に埋蔵文化財や当センターの業務を理解してもらうことを目的に、今年度調査された遺跡資料を展示した。

### ③　「写真でみる長野県の遺跡発掘2008」

会　場：しなの鉄道屋代駅　千曲市民ギャラリー

会　期：平成20年２月18日(月)～２月26日(火)

内　容：長野県立歴史館で開催される速報展のプレイベントと位置づけ、最寄りの屋代駅構内で写真パネルを中心とした展示を行った。

### ④　平成19年度長野県埋蔵文化財センター速報展「長野県の遺跡発掘2008」

会　場：長野県立歴史館

会　期：平成20年３月15日(土)～５月11日(日)

内　容：平成19年度に発掘調査と整理を行った遺跡の出土資料や関連遺跡の資料を展示している。歴史的大発見となった中野市柳沢遺跡出土の弥生時代銅戈・銅鐸や、佐久市西近津遺跡群出土の銅印など貴重な新発見遺物をいち早く展示、大きなみどころとなっている。

特別考古学講座　3月15日（土）

「柳沢遺跡を考える」　聴講者320名

柳沢遺跡調査指導委員による講演やパネルディスカッションを行った。

（2）25周年展

**「埋もれていた信州遺産の発見～長野県埋蔵文化財センター25年の歩みから～」**

会　場：長野県立歴史館

会　期：平成19年5月19日(土)～7月1日(日)

来館者：5,962名

内　容：設立されてから25周年という節目を迎え、当センターが県の埋蔵文化財保護行政の中で果たしてきた役割・効果を洗い出し、当センターの必要性や存在感を県民に提示していく必要があると考え企画した。なお、この展示会は、長野県立歴史館の春季展として位置付けられ、広報を含め、多くの場面で県立歴史館の協力を得た。

当センターでは、昭和57年（1982年）の設立以来、主として高速道路及び新幹線建設に伴って、県内各地のおよそ300の遺跡を発掘調査してきた。

展示では、その内の60遺跡から1,000点を厳選し、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代・中世の6時代に区分した。そして、それぞれの時代を象徴する出土品を展示室中央に配置した。壁面ケースには、各時代の人々の生活痕跡や心の軌跡をテーマに、イメージを膨らませることのできるものを展示した。また、展示室の奥に、縄文時代から中世までの時間の流れを知っていただくため、土器を中心とした器を時代順に並べて展示した。

一般見学者だけでなく、多くの県内市町村の埋蔵文化財担当者にも会場に足を運んでもらい、好評であった。

（3）現地説明会

県教育委員会との共催事業とし、6遺跡で実施した。御社宮司遺跡では、発掘作業日に作業のようすも含めて公開した。これ以外は土・日に開催し、広く県内外に周知した。特に、柳沢遺跡では、銅戈・銅鐸がマスコミで大きく取り上げられたこともあって、近年まれに見る参加者があった。また、西近津遺跡群では、現場事務所を利用して県立歴史館の勾玉教室を同時開催した。これにより、雨にもかかわらず多くの親子連れが参加してくれた。

| 期　日 | 遺跡名 | 参加者 |
|---|---|---|
| 6月24日（日） | 千曲市　東條遺跡 | 97名 |
| 7月12日（木） | 茅野市　御社宮司遺跡 | 35名 |
| 7月28日（土） | 中野市　宮沖遺跡 | 42名 |
| 9月2日（日） | 坂城町　上五明水田址 | 84名 |
| 11月3・4日(土・日) | 中野市　柳沢遺跡 | 1,890名 |
| 11月11日（日） | 佐久市　西近津遺跡群 | 212名 |

（4）ニュース　～みすずかる～の発行

年3回発行し、通巻で15号を数える。13号では調査中の各遺跡の情報を広く集めた。また、14号・15号は今年度のトピックといえる出土遺物について個別の特集を組んだ。

| 号数 | 発行日 | 内　容 |
|---|---|---|
| 13 | 8月24日 | 19年度調査の概要と前期の成果 |
| 14 | 11月9日 | 西近津遺跡群出土銅印とその類例 |
| 15 | 3月15日 | 柳沢遺跡の銅戈・銅鐸特集 |

# Ⅴ　研修、資料調査等の概要

## （1）講師招へいによる指導

| 期　日 | 所　属 | 職・氏名 | 指導内容 |
|---|---|---|---|
| 4月13日 | 京都大学大学院文学研究科 | 教　授　金田章裕 | 佐久市西近津遺跡を中心とした、古代・中世の村落について |
| 5月11日 | 信州大学理学部<br>竹佐中原遺跡等調査指導委員会 | 教　授　原山　智<br>委　員　松島信幸 | 飯田市竹佐中原遺跡出土石器に係る石材（ホルンフェルス及び珪質凝灰岩）の産地について |
| 6月5日 | 県立歴史館 | 専門主事　原　明芳 | 坂城町上五明条里水田址で検出された木棺墓について |
| 6月25日 | 国立歴史民俗博物館 | 副館長　小野正敏 | 千曲市東條遺跡の中世集落について |
| 6月26日 | 別府大学 | 客員教授　宮本長二郎 | 飯綱町表町遺跡の竪穴建物について |
| 6月28日 | 県文化財保護審議会 | 委　員　吉澤政己 | 伊那市東高遠若宮武家屋敷の調査について |
| 7月9日 | 竹佐中原遺跡等調査指導委員会 | 委員長　戸沢充則<br>委　員　小野　昭<br>委　員　佐川正敏<br>委　員　佐藤宏之<br>委　員　松島信幸<br>委　員　神村　透<br>委　員　大竹憲昭 | 飯田市竹佐中原遺跡の調査について |
| | 阿智第三小学校 | 校　長　市澤英利 | |
| 7月14日 | 信州大学人文学部 | 教　授　笹本正治 | 伊那市東高遠若宮武家屋敷の調査について |
| 7月17日 | 長野市立博物館 | 学芸員　千野　浩 | 中野市千田遺跡出土土器について |
| 8月27日 | 京都大学 | 名誉教授　茂原信生 | 千曲市西近津遺跡出土獣骨について |
| 10月25日 | 県遺跡調査指導委員会 | 会　長　戸沢充則 | 柳沢遺跡の調査について |
| 10月25日<br>1月24日 | 県遺跡調査指導委員会 | 委　員　会田　進 | 柳沢遺跡の調査について |
| 11月1・2日<br>12月3・4日<br>3月14・15日 | 柳沢遺跡調査指導委員会 | 委員長　笹沢　浩<br>委　員　石川日出志<br>委　員　工楽善通<br>委　員　難波洋三<br>委　員　村上　隆<br>委　員　吉田　広 | 中野市柳沢遺跡の調査について |
| 11月16日ほか | 信州大学理学部 | 准教授　保柳康一 | 中野市柳沢遺跡の青銅器埋納坑について |
| 11月8日 | 別府大学 | 客員教授　宮本長二郎 | 佐久市西近津遺跡の建物群について |
| 11月12・13日 | 奈良文化財研究所 | 遺跡整備研究室長<br>山中敏史 | 佐久市西近津遺跡を中心とした、古代・中世の村落について |
| 11月12日 | 県遺跡調査指導委員会 | 委　員　丸山敏一郎<br>委　員　会田　進 | 佐久市西近津遺跡の調査について |
| 1月17日 | 県文化財保護審議会 | 委　員　桐原　健 | 中野市柳沢遺跡の青銅器埋納坑について |
| 2月5日～7日 | 小郡市埋蔵文化財センター | 主任主事　山崎頌人 | 中野市柳沢遺跡の青銅器埋納坑について |

## (2) 全埋文協等への参加

| 期　日 | 会　議　名 | 開催地 | 出席者 |
|---|---|---|---|
| 4月20日 | 全国埋蔵文化財法人連絡協議会中部・北陸ブロック連絡会 | 名古屋市 | 上田典男、山崎勇治 |
| 5月10日～11日 | 平成19年度第1回全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会 | 高知市 | 平林　彰 |
| 6月7日～8日 | 第28回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会 | さいたま市 | 寺内隆夫、窪田秀樹 |
| 9月6日～8日 | 第1回埋蔵文化財担当職員等講習会 | 白河市 | 上田　真、贄田　明 |
| 10月18日～19日 | 全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会 | 佐渡市 | 寺内隆夫、河西克造 |
| 10月25日～26日 | 全国埋蔵文化財法人連絡協議会中部・北陸ブロック連絡会 | 富山市 | 寺内隆夫、山崎勇治 |
| 11月1日 | 平成18年度関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当者会議 | 長野市 | 寺内隆夫 |
| 11月8日～9日 | 第32回全国遺跡環境整備会議 | 秋田市 | 若林　卓 |
| 12月13日～14日 | 全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会 | 東京都 | 平林　彰 |

## (3) 研修及び資料調査

| 期　日 | 担当者 | 場　所 | 内　容 |
|---|---|---|---|
| 5月12日 | 内堀　団 | 埼玉県 | 古代集落研究会　佐久市西近津遺跡調査関連 |
| 5月22日～23日 | 上田典男<br>鎗田典昭 | 京都府 | 京都文化博物館　旧石器の型式学的な検討　飯田市竹佐中原遺跡調査関連 |
| 7月25日～8月8日 | 中野亮一 | 奈良県 | 奈良文化財研究所　専門研修「文化財写真（応用）課程」 |
| 8月17日 | 廣田和穂 | 東京都 | 東京大学埋蔵文化財調査室　江戸遺跡の陶磁器について<br>若宮武家屋敷跡調査関連 |
| 9月13日 | 柳沢　亮 | 千葉県 | 国立歴史民俗博物館　西近津遺跡出土銅印について |
| 10月15日～17日 | 鎗田典昭 | 静岡県 | 沼津市教育委員会等　旧石器の型式学的な検討　飯田市竹佐中原遺跡調査関連 |
| 10月24日～11月1日 | 西　香子 | 奈良県 | 奈良文化財研究所　専門研修「保存科学（有機質遺物）課程」 |
| 11月5日 | 河西克造<br>中野亮一 | 茅野市 | 中世土器検討会　茅野市御社宮司遺跡、飯綱町荻町遺跡出土土器について |
| 11月7日～16日 | 綿田弘実 | 奈良県 | 奈良文化財研究所　専門研修「報告書作成課程」 |
| 11月11日～13日 | 鎗田典昭 | 広島県 | 広島県立歴史民俗資料館　飯田市竹佐中原遺跡調査関連 |
| 11月26日～27日 | 上田典男 | 島根県<br>福岡県 | 荒神谷博物館・古代出雲歴史博物館・小郡市埋蔵文化財センター　青銅器埋納遺構について |
| 12月10日～14日 | 岡村秀雄 | 奈良県 | 奈良文化財研究所　専門研修「測量外注課程」 |
| 12月14日～15日 | 岡村秀雄<br>柳澤　亮 | 奈良県 | 奈良文化財研究所　古代官衙・集落研究会　佐久市西近津遺跡調査関連 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 20年1月11日 | 河西克造 | 神奈川県 | (財) 馬事文化財団　馬の博物館　御社宮司遺跡出土青銅製品について |
| 1月13日 | 岡村秀雄<br>小林秀行 | 石川県 | 石川県埋蔵文化財センター　坂城・更埴バイパス関連遺跡出土木製品について |
| 2月4日～8日 | 寺澤政俊 | 奈良県 | 奈良文化財研究所　専門研修「竪穴建物遺構調査課程」 |
| 2月21日～28日 | 白沢勝彦 | 奈良県 | 奈良文化財研究所　専門研修「地質環境調査課程」 |
| 2月27日・28日 | 鵜田典昭 | 東京都 | 府中市郷土の森博物館　飯田市竹佐中原遺跡調査関連 |
| 2月29日・30日 | 廣田和穂 | 東京都 | 研究プロジェクト平成19年度フォーラム「祭祀遺跡に見るモノと心」 |

### (4) 考古学関係研究会・研修会・講演会での発表

| 期　日 | 派遣先 | 内　容 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 6月9日 | 塩尻市立平出博物館 | 平出博物館土曜サロン「石製模造品からみた古墳時代の祭祀」 | 櫻井秀雄 |
| 6月10日 | 佐久考古学会 | フォーラム『佐久と武田信玄』「信玄が築いた佐久の城」 | 河西克造 |
| 6月24日 | 上田市立<br>信濃国分寺資料館 | 上田市民講座「千曲市東條遺跡の調査と蘇民将来符」 | 岡村秀雄 |
| 8月26日 | 長和町教育委員会 | 黒曜石フォーラム「駒形遺跡」 | 贄田　明 |
| 9月2日 | 上田市立<br>信濃国分寺資料館 | 上田市民講座「縄文時代遺跡の最新の調査成果」 | 平林　彰 |
| 9月15日 | 守矢神長官資料館 | 企画展『武田信玄の史跡』<br>講演会「考古学から見た諏訪の山城」 | 河西克造 |
| 9月22日 | 県立歴史館 | 考古学講座「伊那谷の古墳文化」 | 若林　卓 |
| 9月22日 | いいづな歴史ふれあい館 | 企画展『飯綱町の戦国乱世』<br>講演会「飯綱町荻町遺跡の発掘調査」 | 中野亮一 |
| 9月28日 | 堤防河道研究会(県立歴史館) | 堤防河道研究会「更埴条里遺跡、屋代遺跡群報告書から自然堤防・後背湿地と沢山川、三滝川、五十里川について」 | 寺内隆夫 |
| 9月29日～30日 | 新潟県津南町<br>農と縄文の体験実習館 | 津南シンポジウムⅢ『火焔土器前夜』<br>「千曲川・犀川流域の土器様相」 | 寺内隆夫 |
| 11月4日 | 佐久市長土呂区 | 長土呂区文化祭「国内最大級の竪穴住居跡発見」 | 寺内隆夫 |
| 11月16日～18日 | 栃木県立博物館 | 企画展『とちぎ石ものがたり』<br>シンポジウム「玉類の出現と縄文社会」 | 川崎　保 |
| 11月24日 | 県立歴史館 | 考古学講座「遺跡にみる古代から中世の展開」 | 市川隆之 |
| 12月22日 | 県立歴史館 | 企画展『武田・上杉・信濃武士』講座「築城と破却―川中島をめぐる城の争奪―」 | 河西克造 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1月17日 | 須坂高校 | 北信高等学校教頭会「柳沢遺跡の発掘状況とその歴史的意義について」 | 上田典男 |
| 1月23日 | 市町村埋蔵文化財担当者技術研修会 | 事例報告<br>「重要な遺構等の発見と発掘調査」<br>「青銅器埋納坑の調査課題と方法」 | 平林　彰<br>上田典男 |
| 1月31日 | 中野市柳沢公民館 | 「埋められた弥生時代青銅祭器～銅戈・銅鐸埋納坑の発見～」 | 綿田弘実 |
| 2月3日 | 佐久考古学会 | 講演会・研究発表会「西近津遺跡の調査成果」 | 柳澤　光 |
| 2月9日 | 中野市民会館 | 「銅戈の発見された遺跡<br>～中野市柳沢遺跡調査速報～」 | 上田典男 |
| 2月10日 | 仏教大学 | 博物館実習講義「博物館で『地域』をどうとらえるか」 | 川崎　保 |
| 2月11日 | 下諏訪町公民館 | 諏訪地区遺跡調査研究発表会<br>「茅野市御社宮司遺跡の調査」 | 河西克造 |
| 2月24日 | 塩尻市立平出博物館 | 松本・木曽地区遺跡発表会<br>「中野市柳沢遺跡について」 | 市川隆之 |
| 3月15日 | 長野県立歴史館 | 特別考古学講座<br>「柳沢遺跡を考える」 | 平林彰<br>上田典男 |
| 3月29日 | 日本考古学会（東京国立博物館） | 第62回例会「東日本初の銅鐸・銅戈一括埋納―長野県中野市柳沢遺跡―」 | 綿田弘実 |

### （5）県内市町村及び関係機関への協力・指導

| 期　日 | 依頼元 | 協力・指導内容 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 5月13日～9月30日 | 新潟県津南町教育委員会 | 「火焔土器前夜」の共同研究 | 寺内隆夫 |
| 7月30日 | 長和町教育委員会 | 第4回信州黒曜石サミット企画会議 | 上田典男 |
| 7月21日～3月31日 | 国際日本文化研究センター | 「古代東アジア交流の総合的研究」の共同研究 | 川崎　保 |
| 8月26日 | 長和町教育委員会 | 第4回信州黒曜石サミットを後援 | 上田典男 |
| 11月8日 | 県立歴史館 | 考古資料保存処理講習会を共催 | |
| 11月16日<br>2月12日 | 国土交通省天竜川上流河川事務所 | 天竜川上流域における既往災害による教訓の伝承手法検討会 | 平林　彰 |
| 12月14日 | 黒曜石原産地遺跡保有市町村連絡会議 | 平成19年度の黒曜石原産地遺跡に係る調査状況について | 贄田　明 |
| 12月25日／20年1月17日 | 中野市教育委員会<br>中野市議会事務局 | 柳沢遺跡青銅器埋納坑の調査視察 | 上田典男 |
| 20年2月7日 | 飯田市教育委員会 | 恒川遺跡出土木製品の整理について | 贄田　明 |

## （6）学校等への協力・指導

| 期　日 | 学校名 | 内容 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 4月26日 | 長野市立通明小学校 | 6年生社会科歴史学習への出前授業 | 贄田　明 |
| 6月14日 | 飯綱町立三水第1小学校 | 6年生38名、4年生28名、職員4名の見学 | 中野亮一 |
| 6月22日 | 飯綱町立牟礼東小学校 | 6年生52名、職員2名の見学 | 中野亮一 |
| 6月29日 | 中野市立永田小学校 | 6年生9名、職員1名の見学 | 市川隆之 |
| 7月5日 | 茅野市立宮川小学校 | 歴史クラブ5年生2名、4年生7名、職員1名の見学 | 河西克造 |
| 7月23日～8月3日 | 長野工業高等専門学校 | 4年生3名の実務訓練 | 上田典男<br>市川隆之<br>若林　卓 |
| 7月30・31日 | 長野市立篠ノ井西中学校 | 2年生1名の職場体験 | 上田典男 |
| 8月7日 | 上田市立上田第6中学校 | 1年生1名の職場体験 | 寺内隆夫 |
| 8月10日 | 坂城高校 | 3年選択日本史体験授業 | 贄田　明 |
| 11月2日 | 中野市立南宮中学校 | 2年生1名、1年生1名の職場体験学習 | 鵜田典昭 |
| 11月17日 | 佐久社会科同好会 | 『郷土に学ぶ会』で「志賀城」等見学の講師 | 河西克造 |

## （7）資料等貸与一覧

| 貸与先 | 貸与資料 | 貸与期間 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 株式会社　新人物往来社 | 東條遺跡出土「蘇民将来」符写真1点 | 8月1日～31日 | 「都市をつなぐ　中世都市研究13」掲載、デジタル送付 |
| いいづな歴史ふれあい館 | 表町遺跡出土品32点<br>写真パネル5点 | 8月9日<br>～11月16日 | 特別展「飯綱町の"戦国乱世"」 |
| 上田市立信濃国分寺資料館 | 社宮司遺跡出土品13点 | 9月10日<br>～11月5日 | 特別展「古代信濃の文字」 |
| 広島県立歴史民俗資料館 | 竹佐中原出土品16点<br>写真原版2点 | 9月19日<br>～11月29日 | 特別企画展「最古の狩人を求めて」 |
| 日本考古学協会 | 社宮司遺跡出土「六角木幹」写真原版1点 | 8月6日<br>～10月31日 | 公式サイトに掲載、CD送付 |
| 佐久考古学会 | 西近津遺跡群大型竪穴住居跡写真1点 | 転載許可 | 佐久考古通信100号に掲載 |
| 上田市立信濃国分寺資料館 | 西近津遺跡群出土銅印 | 9月28日<br>～11月5日 | 特別企画展「古代信濃の文字」 |
| 株式会社　新人物往来社 | 柳沢遺跡出土銅戈・銅鐸　写真1点 | 11月28日<br>～12月25日 | 『歴史読本』2008年2月号に掲載 |
| 東京法令出版株式会社 | 石川桑里遺跡出土銅装着例<br>又鉄・エブリ写真『赤い土器のクニ』より転載 | 転載許可 | 『日本史のライブラリー』に掲載 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 浅間縄文ミュージアム | 西近津遺跡群出土品10点<br>周防畑遺跡群出土品７点 | 20年１月23日<br>～２月15日 | 冬季企画展「佐久の遺跡と至宝」 |
| 長野県立歴史館 | 東條遺跡出土「蘇民将来」符赤外線写真画像写真２点、および実測図２点 | 20年１月18日<br>～３月31日 | ブックレット14号に掲載 |
| 株式会社　雄山閣 | 柳沢遺跡出土品　写真４点<br>『松原遺跡』ほか掲載写真の転載７点 | 20年２月13日<br>～３月４日 | 『「赤い土器のクニ」の考古学』掲載 |
| 株式会社　新人物往来社 | 柳沢遺跡出土銅戈・銅鐸　写真２点 | 転載許可 | デジタル送付 |
| （財）長野経済研究所 | 柳沢遺跡出土銅戈ほか　写真２点 | デジタル写真提供 | 『経済月報』２月号掲載 |
| 千曲市森将軍塚古墳館 | 峯畷板遺跡出土土器14点<br>東中曽根遺跡出土土器２点<br>東條遺跡出土銅鏡・土器７点<br>力石遺跡出土土器ほか28点他 | 20年３月25日<br>～５月15日 | 企画展「千曲市の遺跡と遺物１」 |
| 株式会社　学習研究社 | 竹佐中原遺跡出土石器２点<br>竹佐中原遺跡航空写真１点 | 20年２月21日<br>～３月10日 | 『決定版図説日本の古墳・古代遺跡』に掲載 |
| 千曲市教育委員会 | 東條遺跡航空写真２点 | デジタル写真提供 | 『総括砌田の文化的景観保存活用計画書』に掲載 |
| 有限会社　ひいらぎ書房 | 柳沢遺跡出土銅鐸・銅戈の写真１点 | デジタル写真提供 | 地域情報誌『栗の詩』39号に掲載 |
| 毎日新聞社 | 柳沢遺跡青銅器出土状況の写真１点 | デジタル写真提供 | 日刊紙掲載 |
| 中野市教育委員会 | 柳沢遺跡青銅器埋納坑の写真１点 | デジタル写真提供 | 『中野市生涯学習基本構想』冊子への掲載 |

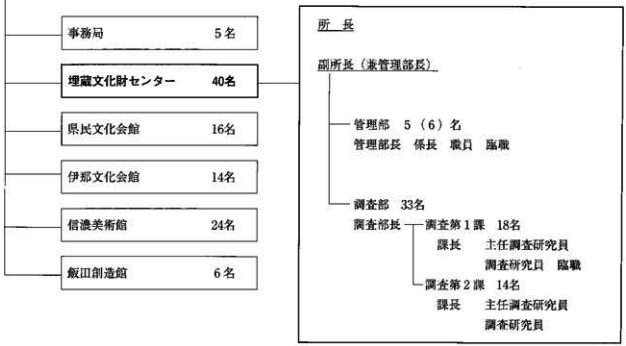
# Ⅵ　組織・事業の概要

## （1）組　織

財団法人長野県文化振興事業団

【役員】　10名

理事長　長野県副知事　　副理事長　県芸術文化協会会長　　常務理事　県生活環境部参事
理　事　県民文化会館長　伊那文化会館長　信濃美術館長　駒ヶ根高原美術館副館長
　　県交響楽団連盟理事長
監　事　2名




## （2）職　員（事務系臨時職員を除く）

H20.3.19現在

| | | |
|---|---|---|
| 所　長 | | 仁科松男 |
| 副所長 | | 根岸誠司 |
| 管理部 | 管理部長（兼） | 根岸誠司 |
| | 管理係長 | 山崎勇治 |
| | 職　員 | 藤森富士子　依田文子（19.12.31退職）　荒城美枝子（20.1.1着任）　窪田秀樹 |
| 調査部 | 調査部長 | 平林　彰 |
| | 調査課長 | 〔第1課〕上田典男　〔第2課〕寺内隆夫 |
| | 主任調査研究員 | 〔第1課〕綿田弘実　岡村秀雄　〔第2課〕廣瀬昭弘 |
| | 調査研究員 | 〔第1課〕小林秀行　白沢勝彦　市川隆之　河西克造　若林　卓　中野亮一　藤原直人<br>鶴田典昭　贄田　明　廣田和穂　市川桂子　寺内貴美子　山崎まゆみ<br>〔第2課〕寺澤正俊　上田　真　川崎　保　櫻井秀雄　西　香子　藤松慎一郎　柳澤　亮<br>古賀弘一　内堀　団　石丸敦史　高野晶文 |
| | 調　査　員 | 〔第1課〕大沢泰智　〔第2課〕鈴木時夫 |

## (3) 事　業

経費はH20.3.31現在

| 事業名 | | | 委託事業者 | 事業個所 | 事業内容 | 経費（千円） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 受託事業 | 調査 | 中部横断自動車道 | 国土交通省<br>関東地方整備局 | 佐久市<br>西近津遺跡群ほか | 発掘作業 | 374,095 |
| | | 一般国道18号<br>坂城・更埴バイパス | 国土交通省<br>関東地方整備局 | 千曲市<br>東條遺跡 | 発掘作業 | 81,561 |
| | | 一般国道20号<br>坂室バイパス | 国土交通省<br>関東地方整備局 | 茅野市<br>御社宮司遺跡ほか | 発掘作業<br>整理作業 | 34,655 |
| | | 一般国道474号<br>飯喬道路 | 国土交通省<br>中部地方整備局 | 飯田市<br>井戸端遺跡ほか | 発掘作業<br>整理作業 | 55,897 |
| | | 替佐・柳沢築堤 | 国土交通省<br>千曲川河川事務所 | 中野市<br>柳沢遺跡ほか | 発掘作業<br>整理作業 | 114,481 |
| | | 北陸新幹線 | 北陸新幹線建設局 | 長野市<br>南曽峯遺跡 | 発掘作業 | 7,587 |
| | | (主) 長野荒瀬原線 | 長野建設事務所 | 飯綱町<br>妻町遺跡ほか | 発掘作業<br>整理作業 | 23,486 |
| | | (主) 長野上田線<br>力石バイパス | 千曲建設事務所 | 千曲市<br>上五明条里水田址ほか | 発掘作業 | 72,938 |
| | | (都) 3.4.2号大年線 | 諏訪建設事務所 | 茅野市<br>樋井・阿弥陀堂遺跡 | 整理作業 | 7,605 |
| | | 一般国道152号<br>高遠バイパス | 伊那建設事務所 | 伊那市<br>東高遠若宮武家屋敷 | 整理作業 | 5,419 |
| | | 若宮武家屋敷遺跡埋文<br>発掘調査 | 伊那市 | 伊那市<br>東高遠若宮武家屋敷 | 整理作業 | 2,737 |
| | 研修 | 専門的知識技術の習得 | 県教育委員会 | 奈良文化財研究所 | 研修 | 283 |
| 自主事業 | | 速報展など | 5月：埋文センター25周年記念展<br>7月：速報展　県伊那文化会館<br>2月：屋代市民ギャラリー展<br>3月：速報展　県立歴史館<br>随時：遺跡見学会 | | | |

**長野県埋蔵文化財センター年報24　2007**

発 行 日　平成20年３月19日
編集発行　(財)長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター
〒388－8007　長野市篠ノ井布施高田963－４
電話：026－293－5926　FAX：026－293－8157
E-mail：maibun@grn.janis.or.jp
印　　刷　鬼灯書籍株式会社